

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-54C	13-018	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Population-attributable fractions of risk factors for hepatocellular carcinoma in the United States. 米国における肝細胞癌に対する危険因子の集団寄与危険度割合		
<b>執筆者</b>		
Welzel TM, Graubard BI, Quraishi S, Zeuzem S, Davila JA, El-Serag HB, McGlynn KA.		
<b>掲載誌</b>		
Am J Gastroenterol. 2013 Aug;108(8):1314-21. doi: 10.1038/ajg.2013.160.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
肝細胞癌、集団寄与危険度割合、糖尿病/肥満、飲酒、C型肝炎ウイルス		23752878
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 肝細胞癌 HCC の危険因子として、B 型および C 型肝炎ウイルス、過度の飲酒、稀ではあるが遺伝子異常、糖尿病/肥満が挙げられる。しかし、これらの因子の集団寄与危険度割合 PAF について、米国一般住民において、検討されてこなかった。</p> <p><b>方法：</b> 1994 年から 2007 年の間で HCC と診断された 68 歳以上の患者を、SEER-Medicare database を用いて特定した。また同データベースにおいて、無作為抽出された 5% の対象者 (255,702 人) を比較対照群とした。それぞれの危険因子について、オッズ比 OR、95%信頼区間 95%CI、および PAF を算出した。</p> <p><b>結果：</b> 上記それぞれの危険因子について、HCC に対する有意なリスク上を認めた：C 型肝炎ウイルス (OR 39.89, 95%CI 36.29-43.84)、B 型肝炎ウイルス (OR 11.17, 95%CI 9.18-13.59)、飲酒 (OR 4.06, 95%CI 3.82-4.32)、稀な遺伝子異常 (OR 3.45, 95%CI 2.97-4.02)、糖尿病/肥満 (OR 2.47 95%CI 2.34-2.61)。全ての因子を合わせた PAF は 64.5% (男性 65.6%, 女性 62.2%) であり、アジア人で最も高く (70.1%)、黒人で最も低かった (52.4%)。PAF について因子別にみると、糖尿病/肥満で最も高く (36.6%)、ついで飲酒 (23.5%)、C 型肝炎ウイルス (22.4%)、B 型肝炎ウイルス (6.3%)、そして遺伝子異常 (3.2%) の順であった。男女とも糖尿病/肥満の PAF が最も高かった (男性 36.4%, 女性 36.7%)。白人またはヒスパニックにおいては糖尿病/肥満の PAF が最も高かった (それぞれ 38.9% と 38.1%) が、アジア人または黒人では C 型肝炎ウイルスの PAF が最も高かった (それぞれ 35.4% と 34.9%)。</p> <p><b>結論：</b> 68 歳以上の米国人において、最も有力な危険因子である C 型肝炎ウイルスの HCC への影響は、性別、人種により異なっていた。総じて、他のどの因子よりも、糖尿病/肥満の予防・改善が HCC 発症率を最も抑制できる可能性が示唆された。</p>		